

令和5年千葉市教育委員会会議  
第10回定例会会議録

千葉市教育委員会

# 令和5年千葉市教育委員会会議第10回定例会会議録

日時 令和5年10月24日(火)  
午前10時00分開会  
午前10時45分閉会  
場所 教育委員会室

出席委員 教 育 長 鶴岡 克彦  
委 員 小西 朱見  
委 員 藤川 大祐  
委 員 竹田 賢  
委 員 高津 乙郎  
委 員 大山 尋美

出席職員 教 育 次 長 秋幡 浩明 学 校 施 設 課 長 堀 明德  
教 育 総 務 部 長 香取 徹哉 学 事 課 長 長谷川 信  
学 校 教 育 部 長 川名 正雄 教 育 指 導 課 長 八斗 孝之  
生 涯 学 習 部 長 齋木久美子 教 育 支 援 課 長 保田 裕介  
学校教育部参事(教育改革推進課長事務取扱) 伊藤 淳 保 健 体 育 課 長 酒井 隆夫  
中 央 図 書 館 長 佐久間仁央 教 育 セ ン タ ー 所 長 細川 義文  
総 務 課 長 山田 利雄 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 小谷 泰也  
企 画 課 長 望月 宏次 生 涯 学 習 振 興 課 長 内海 豊  
教 育 職 員 課 長 吉田 悦子 文 化 財 課 長 君塚 常行  
教 育 給 与 課 長 松永 信隆 総 務 課 総 括 主 幹 松木ゆうき

書 記 総務課総務班主査 猪飼 恭平 総務課主任主事 中台陽一郎

- 1 開会  
教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立  
全員の委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名  
鶴岡教育長より竹田委員を指名
- 4 会期の決定  
令和5年10月24日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 会議録の承認  
令和5年第7回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 6 議事日程の決定  
議事日程を全委員異議なく決定

## 7 議事の概要

### (1) 報告事項

報告事項(1) 令和5年第3回千葉市議会定例会について

山田総務課長より報告があった。

報告事項(2) 第66回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について

八斗教育指導課長より報告があった。

報告事項(3) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

八斗教育指導課長、細川教育センター所長より報告があった。

報告事項(4) 千葉市科学フェスタ2023の実施について

内海生涯学習振興課長より報告があった。

### (2) 発言の要旨

報告事項(1) 令和5年第3回千葉市議会定例会について

鶴岡教育長 報告事項(1)「令和5年第3回千葉市議会定例会について」、総務課長、説明をお願いします。

山田総務課長 報告事項(1)「令和5年第3回千葉市議会定例会について」報告します。

議案書の1ページをご覧ください。

初めに、「1 会期」ですが、今定例会は9月6日から10月3日までの会期で、議案質疑、教育未来委員会、代表質疑、決算審査特別委員会分科会及び一般質問などが行われました。

次に、「2 提出議案等の審議状況」ですが、(1)から(4)につきましては、教育未来委員会の審査を経て、9月19日の本

会議において可決されました。

(4)、(5)につきましては、決算審査特別委員会分科会の審査を経て、10月3日の本会議において認定されました。

次に、「3 請願の審議状況」ですが、請願第6号「市立学校の給食費無償化」を求める請願が、市議会に提出され、9月12日の教育未来委員会及び9月19日の本会議におきまして、審議された結果、それぞれ賛成少数で不採択とされました。

次に、「4 議案質疑・代表質疑・一般質問」です。

まず、「(1) 議案質疑」ですが、1人から通告があり、教育委員会に関する質疑を行い、教育次長が答弁をしました。

次に、「(2) 代表質疑」ですが、5つの会派から通告があり、うち4会派が教育委員会に関する質疑を行い、教育長が答弁をしました。主な質疑の内容は記載のとおりです。

最後に、「(3) 一般質問」ですが、33人から通告があり、うち16人が教育委員会に関する質問を行い、教育次長が答弁をしました。主な質問の内容は記載のとおりです。

千葉県議会定例会についての報告は、以上でございます。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

報告事項(2) 第66回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について

鶴岡教育長 報告事項(2)「第66回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について」、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 「第66回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】」について、お手元の報告事項(2)に沿って報告します。

議案書3ページをご覧ください。

9月9日から11日までの3日間、きぼーる1階のきぼーる広場と千葉市科学館を会場に開催をしました。この総合展覧会科学部門は、夏休みに児童生徒が取り組んだ自由研究の科学工夫作品や論文の優秀な作品を一堂に展示し、その成果を公開するものです。4年ぶりに入場者制限なしで開催することができました。

「3 出品点数」ですが、各学校から選ばれた作品総数は981点です。その中から203点を推奨として選出し、さらにその中の93点を10月14日から15日に千葉県総合教育セ

ンターで行われる、「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」に出品しました。審査の結果としましては、千葉県知事賞が1人、千葉県教育長賞が2人、ほか7点が特別賞に選ばれました。なお、全国展には、科学論文の部で5点、工夫作品の部で6点出品される予定です。

「4 会期中(3日間)入場者数」についてですが、今年度は、昨年度の入場者を大きく上回り、3日間で5,040人の参観者となりました。

「5 展示」ですが、十分な広さがあるきぼーる広場には、小学校の全学年の科学論文を展示しました。展示スペースを広く確保するため、論文の作成過程で使用した実験道具等の付属品は展示せず、論文ができるだけ重ならないよう並べたことにより、論文冊子を開いて見入る人々の姿が多く見られました。

7階企画展示室には、小学校全学年の科学工夫作品、8階科学実験室には、中学校の科学論文及び工夫作品を展示しました。様々な角度から観察や実験を行い、科学的な手法に基づいて探究した論文や、実用的なアイデアを取り入れた工夫作品が展示されました。今年度の新たな取組みとしましては、教育長賞を受賞した工夫作品を、タブレットを用いて動画で紹介をしました。参観者からは、作品の動きやすばらしさが伝わったと、感心する声が聞かれました。また、展示された作品を熱心に見ていた子どもから、「こういうものを作ってみたい」といった言葉を耳にし、展覧会を開催する意義を改めて感じました。

「6 教育長賞受賞者の作品について」は、資料をご覧ください。

来年1月20日から28日には、総合展第2部(書写、図画工作・美術、家庭、技術・家庭、特別支援教育部門)を開催する予定です。

以上で報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

藤川委員 ご報告ありがとうございます。

日曜日に行かせていただいて、非常に活気がある様子を見させていただきました。やはり4年ぶりにフルの形での開催ということで、活気があって大変よかったですと思いますし、ご報告にもありましたように、お子さんたちが親御さんと一緒に来て、非常に興味深く見ておられる様子があって、こういうものが千葉市の科

学教育の基盤を支えるのだろうなということを改めて実感した次第です。

一つ心配になったのですけれども、運営には多くの現職の先生方が携わられていると思うのですが、9月初旬ということで、夏休み明けで学校が再開して忙しい時期かとも思います。もしかすると、代休なども取れずに当日従事されておられたり、あるいは、準備に相当な時間を費やしたりということがあるのでないかとも思います。ぜひ、先生方のご負担が過剰にならないようにご配慮いただきまして、できるならば代休も取れるような対策も進めていただけたらありがたいなと思いつつ、先生方の様子も拝見いたしました。以上です。

八斗教育指導課長 温かいお言葉ありがとうございます。

検討して参りたいと思います。

高津委員 私も1日目に見させてもらいました。藤川委員と同じで、大変多くの親子連れが、子どもたちだけで来ているところもあったのですが、大変多くいて、活発だなと思いました。

内容を見ますと、小学校の日常の生活や、あるいは出来事からテーマを決めたり、私などでは思いつかないような着想、発想などが多く、楽しんで見させてもらいました。

中学校は、実験、観察、どこかへ出かけてとか、あるいは写真をたくさん撮ってとか、それが単年度だけではなくて、1年生から、あるいは、中には小学校から続けてというものが多く、大変分厚い資料、その子どもたちの努力に感心をしました。

今申しましたが、科学論文の部とか、あるいは工夫作品の部、教育長賞を受賞したのは、3、4年をかけて、特に中学校は3年生最後ということでもありました。そういう作品で、科学だけではなくて、学習面全般で、継続は力なりだなと感じました。

先ほど八斗教育指導課長からありましたように、県の審査が、10月14、15日に行われて、私も新聞を見て、稲毛国際中等教育学校の生徒が特別賞の理科部会長賞とか、あるいは、優秀賞を取った生徒たち、先ほど継続は力なりと言ったのですけれども、この生徒たちが1年生、2年生ですので、また来年、その成果が継続すれば楽しみだなと思いました。

昨年もそうでしたけれども、藤川委員も話しましたように、親子連れが多くて、昨年は、おばあちゃんと子どもの話をしたのですが、お父さんか、あるいは、先生が、小学生の低学年の子に対

して、高学年のすばらしい教育長賞を取った作品などで、とくとくと説明をして、来年このようなをつくろうねという、ほほ笑ましい姿を見ました。

作品は生徒だけではなくて、顧問の先生方が指導されていると思いますので、学校の先生方にもその成果について感謝を申し上げたいと思います。

以上、感想でした。

竹田委員 私も最初の日に行ったのですけれども、感じたことは、親子連れの参観者が多いという印象でした。展示について、いつも感じるのですが学年別に展示してあるのですね。全部にはとても目が通せないので、皆さんが何をご覧になっているかを見てみると、保護者たちは自分のお子さんの作品をまず見て、その後は、教育長賞、科学館賞、推奨などを見て行って、ほとんどの作品はスルーされてしまうといえますか、残念なところがありました。これを学年別ではなくて、むしろジャンル別に分ける展示はどのようなかなと考えたのですね。例えば、カナヘビの研究で非常にすばらしいものがあつたのですけれども、カナヘビは4点ぐらい同じような研究をしているのですね。そうすると、子どもたちが見て、ほかの同じテーマでやっている内容はどのようなかというのが、教育的な深堀りというか視点を変えるところなるとか、そういう面で、そのようにしたほうがいいと思いました。できれば、ジャンル別、例えば動物、昆虫とか、いろいろと分けて行ってやっていただけると、興味があるテーマに皆さん見に行つて、ディスカッションにはならないかもしれませんが、話ができると思います。

あと、もう1点気になったのが、中学の展示なのですけれども、非常に会場が狭くて、ペーパーが3人分くらい積み重なっているのですね。そうすると、大抵上のものしか手に取らないので、下のほうは、これもスルーされてしまうので、ぜひ会場を広く取っていただきたいのと、あとは、できればジャンル別にしていただければと思います。

個人的に興味があつたのは、納豆を何回回転させるかという作品、あともう一つ面白かつたのは、生成AIで感想文を書いたものを、そういうことをやったというの見抜く方法など、そういう面白いテーマがあつたので、非常に楽しかつたです。以上です。

八斗教育指導課長 ご意見ありがとうございます。今、ジャンル別という新たな視点をいただきましたので、展示の仕方、スペースも含めて検討して参りたいと思います。

### 報告事項(3) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

鶴岡教育長 報告事項(3)「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について」、教育センター所長、教育指導課長の順に、説明をお願いします。

細川教育センター所長 報告事項(3)「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」について、結果分析を教育センターからお伝えします。

議案書の5ページをご覧ください。

本年度の調査ですが、4月18日に、市内小学校107校の6年生約7,400人、それから、中学校54校の3年生約6,950人の児童生徒を対象に行われました。

教科に関する調査は、小学校は国語、算数の2教科、中学校は国語、数学、英語の3教科で、英語につきましては、令和元年度以来の実施となっております。問題内容は毎年変わっております。また、児童生徒、学校に対する質問紙調査も併せて実施され、調査結果につきましては、文部科学省から7月31日に公表されております。

「2 教科別結果概要」についてですが、全国平均正答率との比較で申し上げます。本市の小学校6年生の学力の状況は、国語は1ポイント上回り、算数は同等でした。中学校3年生の学力の状況は、国語は1ポイント、数学、英語ともに2ポイント上回るという結果でした。

6ページから8ページ、こちらは正答数分布をあらわしております。特徴としましては、全国とほぼ同様の山型となっております。上位層については、全国平均よりも少し高い傾向が見られます。今後は、各教科の結果分析を参考に、下位層と中位層の引上げを図るよう、各学校に働きかけていく必要があります。

9ページをご覧ください。

10ページまで、全国平均と各学校の正答率の差について、昨年度と比較して向上または低下した学校を載せています。小学校は実施数が40人以下、中学校は80人以下の小規模校については、調査母体による影響が顕著であるため公表をしております。中学校は、国語、数学ともに向上した学校が低下した学校を上回

りました。小学校においては、算数の低下した学校が多くなって  
おります。

10 ページ下段をご覧ください。

こちらは、向上した学校に、学力向上に関する日常的な取組み  
についてアンケート調査を実施した回答です。各学校ともに、自  
校の児童生徒の実態に合わせた取組みを様々行っており、参考に  
なる内容が多く挙げられております。

14 ページをご覧ください。

次に、「3 質問紙調査結果概要」です。特に顕著、あるいは  
学校教育に活用していく部分について抜粋してお伝えします。小  
学校、中学校の回答率を比較しやすくするために、同様の設問に  
対して小学校、中学校の結果を並べて示す形式にしております。

まず、自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識に関する質  
問項目です。「設問1 自分には、よいところがあると思います  
か。」への肯定的な回答率は増加傾向にあります。今年度、本市  
は全国より小学生2.4ポイント、中学生1.3ポイント低いで  
すが、昨年度より小学生は3.7ポイント、中学生は2.1ポイ  
ント高くなっております。

15 ページ、「設問3 将来の夢や目標を持っていますか。」に  
ついては、小学生では肯定的な回答が約80%程度、「設問4 人  
の役に立つ人間になりたいと思いますか。」については、肯定的  
な回答が小学生、中学生ともに90%を超えております。

続いて、16 ページ、「ICT機器の活用に関する意識」です。  
「設問5 5年生まで（中学生は1、2年生まで）に受けた授業  
で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しました  
か。」の週1回程度の割合ですが、小学生は83.1%、中学生  
では84.7%と全国よりも低いものの、昨年度より小学生0.  
6ポイント、中学生10.2ポイント向上しており、ICT機器  
の活用の取組みの成果と受け止めております。

「設問6 ICT機器の使用が勉強の役に立つと思いますか。」  
については、小学生、中学生ともに90%以上の肯定的回答があ  
りました。このことは、児童生徒が学習においてICT機器を効  
果的に活用しているという意識を持っていることと捉えており  
ます。今後も学校の授業におけるICT機器の活用を一層推進し  
て参ります。

18 ページをご覧ください。

「主体的・対話的で深い学びに関する意識」です。「設問 8 自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」について、小学生は全国平均を 0.6 ポイント上回りました。それに対して、それ以降の質問項目、「設問 9 課題解決に向けた取組み」、19 ページ、「設問 10 各教科などで学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動」、「設問 11 自分に合った学習」、20 ページ、「設問 12 話し合いにおける自分の考えの深まりや広がり」、「設問 13 学習した内容の見直しから次の学習へのつながり」、21 ページ、新たな設問「設問 14 学んだことをほかの学習に生かしているか」などで、全国平均よりもやや下回る結果となりました。

しかしながら、これらの項目において、本市の調査結果としては、昨年度よりも上昇している項目がありました。設問 9 では小学生が 1.8 ポイント、設問 10 では小学生が 3.1 ポイント、中学生が 1.0 ポイント、設問 11 では小学生が 3.5 ポイント、そして設問 12 においても、小学生 1.7 ポイント、中学生 1.3 ポイントといったように上がっている結果が出ております。

これらのことから、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善、児童生徒一人一人の学びに合わせた支援、自己調整を促すような支援を行い、個別最適な学びの充実をさらに図っていくことが重要だと考えられます。教育センターでは、こうした取組みの一助として、自立した学習者の育成を目指した「令和の日本型学校教育 千葉市型」の構築を研究テーマとして、6つの課題研究に取り組んでいます。研究はまだ半ばではありますが、成果を学校現場に届け、これからも学校現場が授業改善を図れるよう努めて参ります。

22 ページをご覧ください。

家庭での学習に関する意識です。設問 16、学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）2時間以上勉強するという児童生徒の割合は、全国平均より小学生は 4.0 ポイント、中学生では 5.3 ポイント高くなっております。なお、この回答には学習塾等で勉強している時間なども含まれております。また、学校以外での学習を 30分より少ない、あるいは全くしていないと回答する中学生が、全国に比べて 0.7 ポイント低い結果であることから、家庭学習に対する意識の高まりが見られます。

しかしながら、小学生においては、学校以外での学習を 30分

より少ない、あるいは全くしていないと回答する児童の割合が、全国に比べまだまだ高い傾向にありますので、引き続き家庭学習を習慣化できるよう家庭と連携していく必要があります。

23 ページ、「設問 18 学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」については、1 時間以上読書をするという児童生徒の割合は、全国平均を上回っています。また、全くしないと回答した児童生徒の割合は、特に中学生が全国平均よりも低く、読書を行っている児童生徒が多いということが分かります。

最後に、25 ページをご覧ください。

地域・社会との関わりに関する意識では、「設問 21 今住んでいる地域の行事に参加していますか。」については、小学生、中学生ともに全国平均よりも 8 から 9 ポイント低いものの、新たな設問「設問 22 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」については、小学生の 77.4% が肯定的な回答をしており、全国平均よりも 0.6 ポイント高い結果となっております。地域の行事に直接参加できなくても、総合的な学習の時間や生徒会活動等を通じて、地域と連携した教育活動のより一層の充実を図っていくとともに、地域の課題に目を向ける学習なども大切になってくると思われれます。

分析につきましては、以上でございます。

今後の取組みにつきましては、教育指導課長よりご報告します。

八斗教育指導課長 教育指導課としましては、児童生徒の確かな学力の定着を図るため、次のような取組みを通して、授業改善を推進して参ります。

まず、市内各小・中学校において、全国及び千葉市学力学習状況調査の結果等を基に、自校の学力の傾向や課題を分析・把握し、その改善に向けた学力向上アクションプランの見直しを行います。その際、教科の学習の中で、1 人 1 台端末をどのように活用していくのか、学校での学習と家庭学習との関連をどのように図っていくのかといった点などを全職員で共有し、検証と改善を重ねながら実践して参ります。

次に、結果分析を受け、各教科の課題と改善策、指導のポイントを示したリーフレット「指導改善に向けたポイント」や、「授業改善のすすめ」を作成し、各学校へ配布し、日々の授業での活

用促進を図って参ります。

また、各学校への訪問指導の機会を生かし、主体的・対話的で深い学びの実現のため、単元の学習の導入段階で学習の見通しを持たせたり、学習の振り返りをする際には、学んだことをこれからの学習にどう生かすかを意識させたりするといった自己調整を促し、個別最適な学びの充実を図れるように支援して参ります。

さらに、学力向上には家庭学習の習慣も欠かせないことから、教育センターと連携し、保護者には教育だよりちばを通して、家庭学習の大切さや家庭での児童生徒の望ましい生活習慣の在り方、継続して読書に取り組むなどについて発信をしていきます。また、学校へはGIGAタブを活用した家庭学習の好事例を発信するなどして、家庭学習の取組みを推進して参ります。

自己肯定感、将来の夢や目標に関する項目につきましては、教育委員会事務局各課と連携し、各校が自校のグランドデザインに4つの基礎的・汎用的能力を具体的な力として設定したり、企業、各種団体、地域、家庭と連携を図り、職業体験学習を実施したりしてキャリア教育を推進していけるよう助言して参ります。

以上でございます。

鶴岡教育長 審議に移ります。質問等を含め、何かありますか。

藤川委員 ご報告ありがとうございます。多くの項目で非常にしっかりした結果が出ていて、これは学校の先生方をはじめ、関係の皆様のご尽力のおかげと思います。感謝申し上げます。

しかし、中でも16ページのICTのところは、顕著に全国と比べて状況が悪いということが続いております。改善を図られているとはいえ、まだまだ全国との差は大きいです。これまで教育センターでICTに関わる研究を精力的にやってきたはずであり、1人1台端末環境が実現した現在、本来であれば、もっともっとICTが活用され、ICTの活用を生かして個別最適な学びであるとか教育的な学びがもっと進まなければいけなかったはずでありまして、この状況は非常に懸念されるものだと考えております。

市内の先生方のお話を伺うと、一つの要因として、セキュリティが厳し過ぎるという声をよく聞きます。つまり、独自の教材を使おうと思っても、インストールもできないとか、あるいは、子どもたちが調べ学習をしても、すぐにフィルタリングでブロックされる。さらには、生成AIを先生が試しに使って、デモンスト

レーションで見せてあげたいと思っても、生成AI自体にアクセスができないといった声をたくさん聞いております。

また、私は教育センターの研究に参加させていただいており、先生方が日頃、グーグルクラスルームなどを使って資料を共有されているのですが、教育委員たる私もその中に入れていただけないと。つまり、外部の人と情報を共有するということが一切できない。教育委員であっても、継続した指導講師であっても共有ができないぐらい、がんじがらめなセキュリティになっているわけですね。このように、何かを思い切ってやろうとすると、すぐにセキュリティの壁に阻まれるという状況がございます。これはほかの自治体で伺っても一切そういうことはなくて、千葉市が固有に厳しいという状況なのですね。このあたりは改善できる場所だと思います。こういう改善を図りつつ、先生方への研修、啓発などを進めていただかなければ、この状況というのはずっとこのままではないかというふうに懸念しております。ぜひ、そのセキュリティのあり方の見直しを進めていただいて、状況の抜本的改善を進めていただきたいと、切にお願いいたします。

長谷川学事課長 情報セキュリティにつきましては、現在、教育委員会ではなく、市の情報セキュリティポリシーに基づいて対応しているところでして、現在、教育委員会として教育の情報セキュリティについての策定に向けて、立ち上げたところでございます。今おっしゃったようなところを改善できるように努めてまいりたいと思います。

細川教育センター所長 ご指摘ありがとうございます。インストールができないという件につきまして、ギガタブ活用のワーキンググループがありまして、そちらのほうで現場の声も聞いておりますので、どういった形でできるかというところ、各過程で検討している段階でありますので、もうしばらくしたら改善できるかなというふうに思っています。

藤川委員 ぜひ、周辺他市の状況などもよく見ていただいて、千葉市だけが厳しいという状況を、早急に解消していただきたいとお願いいたします。

鶴岡教育長 今の件に関連してですが、今の16ページの設問5、6の件で、特に設問6は、子どもたちはICT機器を役立てたいという思いが強いので、役立てなくてはいけないかなと思いつつ、私に入ってくる情報は、中学校の実態は若干似ているかなと思うのですが、

小学校はなぜこういう調査結果になるのかなと思うぐらい使っているはずなのに、調査結果が出ていないのは、実は疑問です。中学校1年生は何となく分かるのですが、「5年生まで」という言葉に引っかかっているのか、これが「5年生のとき」だったら出方が違うと思うのです。ただ、1年生、2年生のときのことを振り返ってみてなどと言われると、さすがにその頃はやっていないので、という見方なのかなとも思います。また検証していかなければならないかなと、私自身も思いました。

大山委員 17ページで、すごく気になったのが、設問7の「勉強のためにタブレットを使っているか」というところで、「全く使っていない」と「30分より少ない」の回答がすごく数字が高くて、ここの中では、家庭と連携しながらと載っていますが、家に持って帰らなければ、実際にタブレットは家では使えないわけです。今、毎日、タブレットを持って帰っているわけではないですよ。週末だけでも持って帰るとか、何か対策をしなければ、ここは変わらないのではないかと、私はこの数字が低いところがすごく気になっています。なので、今までどおり、少し数字がよくなったか、去年と比べたからよくなったのではなく、今後のために、藤川委員もおっしゃっていましたが、改善できるところは改善しなければ数字は上がらないと思います。私も教育委員として勉強させていただきましたが、佐野市がすごく発展して、目からうろこだなと本当に思ったので、真似できるところは真似していただきたいというのが感想です。

八斗教育指導課長 ギガタブの持ち帰りにつきまして、4月から家庭学習にギガタブを活用するというについては、各学校に通知をしているところです。9月に行ったアンケートによりますと、毎日、ギガタブを持ち帰るという学校については、今、半分以上の学校が持って帰っているというような状況です。

また、これについては、さらに持ち帰りを推進していきたいと思っているところです。そうすることで家庭学習につなげるという取組みを、推進して参りたいと思っています。

鶴岡教育長 改善した点について、申請書を出さないと持って帰れなかったというところを改善したと思うのですが、そこはいかがでしょうか。

川名学校教育部長 昨年度末、持ち帰りを推進するにあたって、これまで毎日行っていた持ち帰りの申請方法を変更しました。年度当初に1回申

請すれば、それが1年間を通して有効とすることで、手続きの簡略化を行いました。

しかしながら、この調査については、4月時点のものとなり、その改善が十分には反映されていません。私どもが夏休み以降の9月に行った調査では、多くの学校で持ち帰りが進んでいるとの結果があり、一定程度の推進が図れていると認識していますが、更なる改善を図っていきたいと考えます。

鶴岡教育長 いずれにしても、数値は重く捉えなければならないので、引き続き鋭意努力したいと思います。

#### 報告事項(4) 千葉県科学フェスタ2023の実施について

鶴岡教育長 報告事項(4)「千葉県科学フェスタ2023の実施について」、生涯学習振興課長、説明をお願いします。

内海生涯学習振興課長 10月7日、8日の2日間にわたって開催されました「千葉県科学フェスタ2023」についてご報告させていただきます。

今年度の科学フェスタは、市長、教育長、教育委員の皆様のご参加をはじめ、多くの方々のご協力をいただき開催することができました。ありがとうございました。

開幕式においては、市長挨拶、開幕宣言、科学館長挨拶、市の総合展示会の教育長賞、科学館賞の表彰式では、教育長挨拶と各賞の表彰、また、表彰式後に、科学館賞の発表会を行いました。

「4 主な内容」の「(4) 主なイベント」ですが、アといたしまして、スペシャルイベントとして、1階きぼーる広場と7階サイエンスアート広場において、科学フェスタ事務局企画による防災イベントを実施しました。多くの親子連れでにぎわい、楽しみながら防災について考える機会となりました。

イの3階子ども交流館アリーナでは、いろいろな科学を楽しみたい、として、25団体34ブースにより様々なワークショップを開催しました。割れないシャボン玉づくり、LEDこまづくりなど、子どもたちが真剣に科学に取り組む姿が見られました。また、出展団体の方々と市民の皆様との触れ合いが印象に残りました。

ウについてですが、8日には千葉市内のユニークな技術や製品などを持つ企業の取組みを紹介する千葉オンリーワン企業と身近な科学というイベントを開催しました。市内の企業6社にご協力をいただき、千葉の企業のPRにもつながりました。

エの科学館内の実験室では、10団体による科学実験講座を行いました。どの講座も大盛況で、子どもたちが楽しむ様子が見られました。また、中学校科学部による講座など、生徒が主体となって実施しているものもありました。

「5 入場者数」ですが、今年度は8,138人となり、昨年度の入場者数よりも少なかったものの、新型コロナウイルス感染症流行前の平成30年度7,128人よりも多くの方に来場していただきました。科学の楽しさ、面白さ、すばらしさを提供できたのではないかと考えております。

報告は以上でございます。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

竹田委員 私は1日目に行ったのですけれども、非常に活気があって、特に小さいお子さんたちが楽しんでいる姿がありました。

ちょっと残念なのは、学校の出展ブースで、八千代松陰高校や県立京葉工業高校が出していたのですけれども、千葉市の学校からの出展がありませんでした。せっかくスーパーサイエンスハイスクールなどをやっているわけですから、ぜひ、当市の中学校の科学部とか、高校の出展があったらよかったなと思いました。

内海生涯学習振興課長 来月、千葉市内の中学校の科学部が集まりまして、サイエンスクラブアセンブリーがありますので、その際に、参加された科学部の生徒たちに、今回の科学フェスタの参加についても促したいと思っております。

鶴岡教育長 実は私も、科学館長に同じ質問をしたのですけれども、市立千葉高校は別日に枠を作って、千葉高校だけの日をつくっているということです。そのように聞いたのですが、間違いなかったですか。

内海生涯学習振興課長 間違いありません。

鶴岡教育長 そのような工夫はしていると聞いていました。

竹田委員 京葉工業高校が、回すとLEDがつくこまをつくっていたのですけれども、費用は何か補助などが出るのですか。

内海生涯学習振興課長 全て無償です。割れないシャボン玉なども、大変喜ばれるので、引き続き続けたいと考えています。

鶴岡教育長 私も星座早見表をもらいました。

藤川委員 ありがとうございます。2日目に伺いまして、非常に活気がある様子も見ました。多くの団体が出展されているのがとてもいいなと思いました。また、当日は科学館自体を無料で開放して

いて、それもあって多くの人がいらっしゃる状況になっているのかなということで、こういうものがお祭りの的にできているということは素晴らしいなと思いました。ありがとうございました。

8 その他

第11回定例会は、11月15日 水曜日 午後2時からとした。

9 閉会

鶴岡教育長より閉会を宣言